

民家・町家のみかた調べ方研修会

— 発表会 —

本町一・二丁目では重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けて、歴史的建造物を活かしたまちづくりが積極的に行われつつあります。しかしその一方で、活かそうとする努力をしながらも結果的には建物の歴史的・社会的価値を失うような設計や工事も見受けられます。歴史ある建物の価値や魅力を損なわない修復・修理・再生・リフォームを行うためには、技術とともに取り組む姿勢や考え方・方法などを身につける必要があります。この研修会では歴史的建造物の設計・施工の立場から調査・修復の方法を学び、活用計画を検討しました。ここに、その成果を発表するものです。

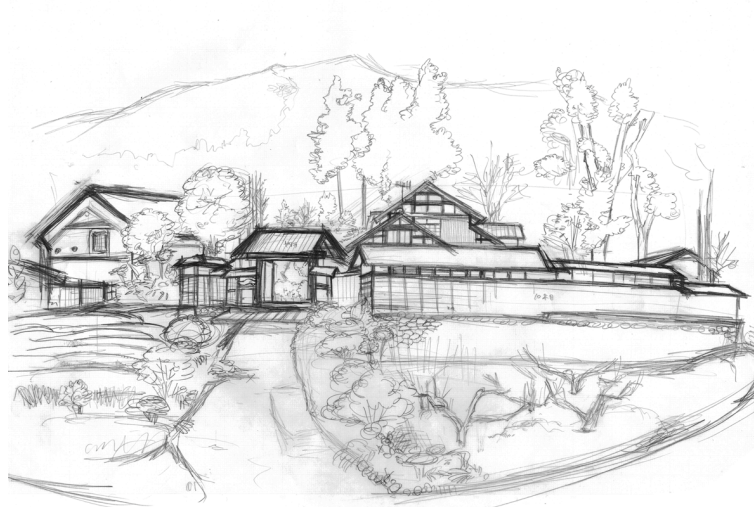
日時：平成22年2月13日（土）：発表会 13:30～16:00 / 懇親会 17:00～

会場：桐生市本町「本町二丁目・横山町集会所」（駐車場：北小学校正門手前100円手前農園駐車場）

※懇親会会費 1,500円

○ 研修会における事例調査：桐生織塾（青木家住宅）

江戸後期から明治に至るまで桐生織物産業が盛衰を繰り返す中、工場組織の「成愛社」が立ち上げられ、青木家住宅が観光繻子部門の工場として当てられた。同社が明治25年に解散したあと再び住宅となったが、平成2年に工房として「桐生織塾」が開塾し、現在に至る。



川崎香織

①主屋：

典型的な田の字型民家の、東に管理人の住まい、西側に蔵前と蔵が接続された構成となっている。

14畳の土間の左手に8畳の表座敷が2間続き、奥座敷には床の間がつき格式高くなっている。この接客空間の背後には生活の場としての土間、囲炉裏、板間があり、さらに左手に茶の間、居間が繋がっている。

②門：

住宅の東の主入口に1間半の門がある。両脇に土塀が付き、向って左手には潜戸がついている。北側の道路に面し、物置に挟まれた作業用の1間半弱の門がある。

③土蔵：

屋敷の南側に建っている。

○ プログラム

1. 開会あいさつ 池田 和夫 13:30～13:35

2. 文化財保存コースにおける学習（長岡造形大学木村研究室） 13:40～14:15

①小林 裕香 : 織物産業に生きた人その暮らしを探る - 機屋で働く織物職人の住まい - 修1年

②伊藤 静香 : 五泉の織物産業遺産の現状と保存について 4年

③川崎 香織 : 歴史ある建物と共に生きるために、何からできるのか - 蒲原宿の人々に学ぶ - 3年

④竹内 菜々子 : 二つの合掌造りから学ぶ - 白川郷と相倉集落 - 2年

⑤一ノ瀬 麻衣子 : まちに人を呼ぶ前に考えたいこと 2年

⑥山口 由加利 : 変わりゆく城下町沼田の面影 - 地方都市における都市開発と歴史的空間 - 4年

休憩 14:15～14:35

3. 織塾の調査（建築士会） 14:35～16:10

①桐生織塾（青木家住宅）の概要 5分

池田 和夫

②主屋（矢内班） 35分

中山 一郎 : 建物の全体構成

須藤 亜弥子 : 1階居室部分の現状

横倉 智恵子 : 1階オカッテ、ドマの現状

狩野 理恵 : 2階の現状

日里 早知子 : 1階の改変

矢内 勝巳 : 2階の改変

小林 望美 : ※ 欠席

③内蔵（小林班） 30分

小林 彰男 : 概要

久保田 眞理子 : 南蔵について

板川 多恵子 : 北蔵について

下山 彰 : 蔵前について

佐瀬 勝彦 : まとめ

大内 勝文 : 感想

④外蔵・周囲建物（上田班） 25分

齋藤 千江 : 概要・表門

津久井 晴美 : 外蔵物置③

大澤 道成 : 土塀と物置①②④

須藤 心一 : まとめ

上田 彰 : ※ 欠席

4. 質疑応答と総評 16:10～16:30
総評：木村 勉

5. 終了：あいさつ 大内 栄 16:30～16:35

6. 懇親会 17:00～

